

産学官で飲食店支援 対策をアドバイス

小倉北 間仕切り大ききなど

新型
コロナ

新型コロナウイルス対策に苦慮する飲食店を支援するため、産学官連携のサポート事業を始めた産業医科大と北九州商工会議所、北九州市は18日、小倉北区の飲食店5店で対策をアドバイスした。専門家が店を訪れてカウンターの間仕切りの設置状況などを確認



開店準備中の店舗で感染防止策をアドバイスする産業医大の森教授(右から2人目)ら

し、店側の相談に応じた。門司港レトロビール(門司区)が11月開店を目指す小倉北区の店舗

では、施工業者も交えて店の構造や内装について意見を交わした。産業医大の森晃爾教授らは客席数やレ

イアウトを聞き取り、図面で確認した上で「空気を滞留させないことが重要」と強調。換気の仕組みのほか、飛沫感染防止の間仕切りの大きさなどを助言した。

同社の宮本正吾会長は「客席ごとに換気を完全に分けるべきかと考えていたが、『空気をとどめない』という点に注意すれば良いと分かった。図面を直し、改めて相談したい」と話した。

サポート事業では、飲食店向けの対策をまとめた独自の手引書作成を予定している。

【井上卓也】

(掲載について毎日新聞社許諾済、無断転載(コピー、スマートフォン等での撮影)禁止)